

いぼかわ

せせらぎたより



一宮町曲里付近

Contents

揖保川流域委員会 現地視察の実施

- ◆ 揖保川上流部(一宮町)から河口までの現地視察が実施されました

第2回 揖保川流域委員会の開催

- ◆ 現地視察の結果を受けて、揖保川の現状認識のために共有すべき情報について審議されました

このニュースレターは、「揖保川流域委員会」の審議内容について流域の皆さんに発信するために、委員会が編集・発行しています。揖保川流域委員会の内容は、ホームページでもご覧いただけます。

揖保川流域委員会 ホームページアドレス <http://www.iboriver.jp>



今回の表紙写真は山崎町にお住まいの井口一郎さんから寄せられた写真です。

現地視察

揖保川の上流から下流まで視察しました

■日 時：平成14年5月14日(火) ■場 所：揖保川直轄管理区間

平成14年5月14日(火)に、16名の委員が参加して現地視察が実施されました。(14日に参加できなかった4名の委員は、20日(月)に同じルートで視察を行いました。)

現地視察ルート

現地視察は、国土交通省が管理する河川の区間(直轄管理区間)の上流端(一宮町)からスタートし、18カ所の主要な視察ポイントを順に河口まで回るルートで実施されました。また、視察の最後には委員による感想発表会が行われました。

主な視察ポイント

● 直轄上流端・引原川合流点付近

視察の起点としたこの地点では、一宮町在住の庄委員及び河川管理者より説明がありました。庄委員からは、この合流点付近の洪水時の災害の様子や、上流部で実施している水生生物調査について、河川管理者からはこの付近の河川の流下能力について説明がありました。



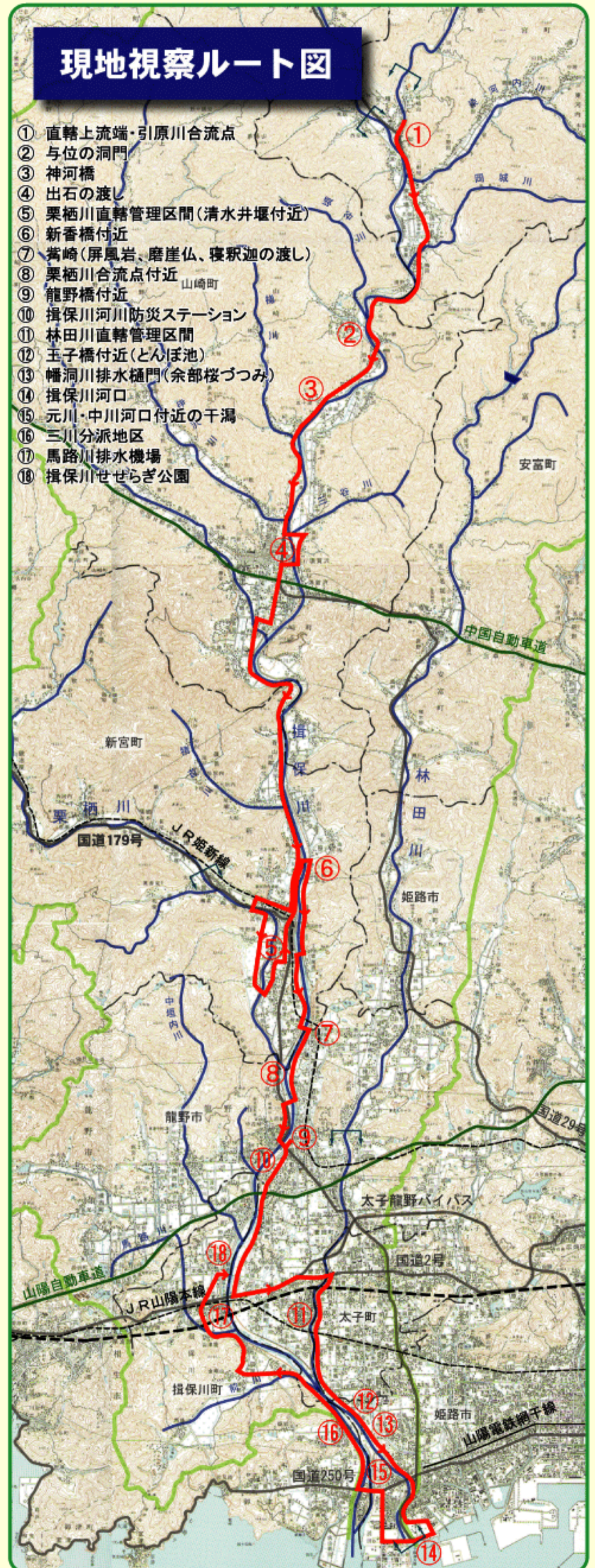
● いだし 出石の渡し

この地点では、山崎町在住の森本委員より説明がありました。かつてこのあたりは、下流へと物資を運ぶ高瀬舟の起点であったこと、河床に岩盤が露出しており、いかだ流しのためのいかだ道を別につくらなければならなかったことなどの説明がありました。



現地視察ルート図

- ① 直轄上流端・引原川合流点
- ② 与位の洞門
- ③ 神河橋
- ④ 出石の渡し
- ⑤ 栗栖川直轄管理区間(清水井堰付近)
- ⑥ 新香橋付近
- ⑦ 鶯崎(屏風岩、磨崖仏、寝釈迦の渡し)
- ⑧ 栗栖川合流点付近
- ⑨ 龍野橋付近
- ⑩ 揖保川河川防災ステーション
- ⑪ 林田川直轄管理区間
- ⑫ 玉子橋付近(とんぼ池)
- ⑬ 幡洞川排水樋門(余部桜づつみ)
- ⑭ 揖保川河口
- ⑮ 元川・中川河口付近の干潟
- ⑯ 三川分派地区
- ⑰ 馬路川排水機場
- ⑱ 揖保川せせらぎ公園



● 龍野橋付近

龍野橋付近では、龍野市と揖保川町に整備されている^{たためてい}畳堤が、「川の景色を見えるようにしてほしい」という住民の要望により整備されたことについて河川管理者より説明がありました。また、浅見委員から丸石やカワラヨモギ、カワラサイコなどがこのあたりの河原を特徴づけていること、時おり冠水する立地環境が川の生態系を維持していることなどについて説明がありました。



畳堤



● 揖保川河川防災ステーション

龍野市にある河川防災ステーションは、普段は総合文化会館として利用されていますが、災害時は災害対策の現地指揮本部となります。施設内にある揖保川の過去の水害の歴史、流路の変遷についての展示、水防倉庫に保管されている畳堤に使用する畳などの見学を行いました。

● 栗栖川・林田川

支川の栗栖川と林田川の視察を行いました。栗栖川では流下能力の低い無堤区間が残されていること、林田川では「清流ルネッサンス21」の事業概要などについて河川管理者より説明がありました。



栗栖川



林田川



わんど

● 下流部

下流部では、浅見委員から河口付近の干潟や三川分派地区の自然環境の貴重性等について、家永委員からわんどの自然環境についての説明がありました。また、河川管理者からは、揖保川せせらぎ公園、桜つつみなど親水拠点の整備、下流部の治水事業等について説明がありました。

感想発表会

視察後、揖保川町の会場で委員による感想発表会がおこなわれました。



現地視察の感想の要点

- 山地の保全など、流域圏全体で河川整備を考える必要がある
- 治水・利水・環境を体系的・総合的に捉える必要がある
- 上流部では、堤防整備などの治水対策の重要性が高いと考えられる
- 人々の生活との関わりの中で生まれた、揖保川の文化の良いところを継承していくべき
- 手つかずの自然を保全する必要があり、多自然型の整備を行うべき
- 子供の教育や地域社会と一体となった川づくりを進めるべき
- 地域の人々や流域市町の意見を聴きたい

おける地域住民参加型ビオトープづくりの概要、森林と河川との関係・つながり、地場産業などと河川の関係・つながり等について知り、現状を認識していくことが大切である。



進藤委員

田原委員：川と関わっている住民の方々の活動団体を把握する必要がある。また、川と周辺の土地利用を含めた流域の状況とその変遷が非常によくわかるものとして、景観情報が重要な意味を持っており、時系列的に並べていくと、これから先の川の管理を考える上で貴重な財産となる。



田原委員

栃本委員：参考文献としてあげた「龍野の自然」「ひめじのさかなとまみずの生物Ⅰ」「生きている揖保川」の情報をもとに、水の中あるいは水辺周辺の生き物について委員の方に知っておいていただきたい。川というのは一続きのものであり、全体を見ていかなければならないし、川の中だけでなく集水域全体の自然環境にもっと注目していかなければいけない。また、これ以上自然を減らさない方向で考えていくべきである。



栃本委員

波田委員：昭和30年代前半頃までの揖保川流域の自然環境と人々の暮らし、特に水利用の状況について知っておきたい。また、必要であれば、ランドスケープを考える上での基本的なデータとして、揖保川流域の基盤地質についての情報を提供できる。



波田委員

正田委員：龍野橋は架け替えの必要な時期にきているが、架け替えにより歴史的な町並みがどのように変わっていくかということに心配している。また、龍野中心部の川幅を拡張する場合には、沿川の文化財がどうなるのか気がかりである。これらの両立を考えることが大事である。



正田委員

丸山委員：現在、国土交通省において計画している工事、行事があれば知りたい。揖保川の水質は、データで比較しても近年確かによくなっており、上水道に携わっている者として喜んでいる。



丸山委員

道奥委員：現地視察において、揖保川では住民の川に関する意識が非常に高いと感じた。上流から下流までの高い意識どうしを、何らかのかたちでつなぐ、あるいは意志疎通できるような仕組みが必要なのではないか。地元のNPO・市民運動などを通して上下流方向のコミュニケーションを高めていくために流域委員会がどのような役割を果たせるのか、ということを考える上で、全国の他の流域のネットワークの方法論が揖保川に適用可能ではないか。



道奥委員

森本委員：山崎近辺の揖保川は、非常に暴れるところだと思う。環境も大事だが、山崎では治水が大事である。各地域の特性に合った河川行政をお願いしたい。



森本委員

吉田委員：支川の林田川では、安富ダムの完成により冬場の水不足が解消し、林田川の水質も清流ルネッサンス事業等で改善され、最近では川沿いを散歩する人も増えてきている。堤防の草刈りの時期等については地元の要望に配慮願いたい。



吉田委員

田中丸委員(メモを庶務が代読)：揖保川の水利用を考えたとき農業用水を無視できない。また、揖保川には複数の頭首工、井堰があり、魚道のあり方など農業と漁業の業種間の関係も考える必要があるので、農業・農村からみた揖保川の現状を把握しておく必要がある。また、揖保川の河川整備や河川環境等に関連するアンケート事例、揖保川に関連の深い活動団体、揖保川を題材にした学校における取り組み等について把握する必要がある。

以上の委員からの発表をもとに、意見交換が行われました。

主な発言は次ページのとおりです。

第2回委員会

揖保川と流域の現状認識について話し合いました

■日 時：平成14年5月27日(月) ■場 所：山崎町 山崎防災センター

委員会の概要

1 現地視察報告

5月14日に委員16名、5月20日に委員4名が参加して実施された現地視察の概要が報告されました。スライドを用いて、各視察ポイントの状況、委員及び河川管理者によって行われた解説の要点、視察の最後に委員から出された感想、について説明されました。



2 揖保川と流域の現状認識

冒頭で、各委員から揖保川と流域の現状認識として、以下の3項目に関する意見が発表されました。

- 1 検討を進めるにあたって、知っておくべき又は知りたいと思われる情報の項目と内容
- 2 委員が持っている情報で、他の委員に知ってもらいたい情報
- 3 その他、情報の共有化に関して委員会での検討が必要と思われる事項

各委員から出された意見の要旨は以下のとおりです。

浅見委員：河川水辺の国勢調査等で揖保川を代表する個々の生物(群集)の分布や生育状況、貴重種の分布や生育状況と、その年代による変遷についてまとめられているものを基礎資料として、さらにその自然環境の特性を分析・評価した資料があれば情報を共有したい。また、現地視察の内容で、ある程度一致した見解が得られたことについて、数値もしくは指標といったかたちで客観的に評価していきたい。視察時に指摘された問題点に関しては、「なぜそういうことが起きたのか」という仕組みや背景を解きほぐしていくことが必要である。



浅見委員

家永委員：川に常に水が流れている状態を維持していくため、直轄管理区間外も含めた流域全体について知る必要がある。源流部、支流部も含めて水源涵養林について見直していただきたい。



家永委員

柳田委員：揖保川の川辺には非常にたくさんの河畔林が残っており、魚類、鳥類、小さな小動物などの餌場ともなっている。これらの大変貴重な河畔林を大切に、人間と共に共生していく方法を委員会で考えるべきではないか。



柳田委員

庄委員：災害が起こる危険性の大きい上流域の課題を踏まえながら、堤防から水辺へ降りていける自然環境の空間を考えていかなければならない。また、直轄管理区間外の支流を含む源流域の山の現状、地域住民との関わりなどの現状を認識していかなければならない。



庄委員

進藤委員：「清流ルネッサンス21」の概要、揖保川町正条地区「水辺の楽校プロジェクト」の概要、「西播磨地域ビジョン推進プログラム」との協力や連携の可能性、「とんぼ池」に

委員からの主な発言

- 龍野のように、まちづくりの中に川という要素を折り込んでいるところがたくさんあるだろうと思う。そういうところと接点を探りながら一緒にやっていけないか。いろいろなかたちで川に関わっておられるグループがたくさんあり、ネットワークが広がっていけばいいのではないか。時間がかかると思うが、そういう芽を流域委員会が開催される期間だけではなくて、それ以後のことも考えて切り口を作っておけばいいのではないか。
- 流域に発展している町の中で川とどのように関わっているのか。そういう意味でのNPOとの関わりとか都市計画との連携についても考えていく必要があるのではないか。
- 河川管理者の方に、揖保川の治水や利水の歴史的な経緯、今まで揖保川をどのようにマネジメントしてきたのかについて、レクチャーしていただくのはどうか。
- 新しい河川法に基づき、治水・利水・環境のバランスのとれた河川整備をしていかなければならないので、地域によって求めておられるものが違うのだが、求めておられないことも流域委員会では整備計画の中に盛り込まれるように気をつけなければならない。
- 揖保川は、全国的にも非常に自然の残された、植物・水生生物の豊かな河川であり、我々がどれを残して、どれを切り捨てるといふことはとても言えないので、きちんとしたデータで情報を知っていくことが非常に大事ではないか。
- 流域委員会は、範囲としては集水域全体を考えていかなければならないと思う。左右の広がりだけではなく、川を上・中・下で分断して考えること自体がおかしいのではないか。
- 100年に一度の大水を通す流下能力が欠けている部分があるという現地視察での説明だったが、これは降った雨が即すべて川の中に流れ込むとすることを想定してのことなのか。降った雨は一度地面にしみ込ませる。つまり、緑のダムを考えていくべきではないか。
- 森は大切であるが、流域委員会としてはどのような情報を得ればいいのか。
- 非常に難しいが、水源の森をどうするのかということ、下流の方も考えて一緒に協力することも必要ではないかと思う。
- 流域の中の産業として、漁業、農業(農業利水)や地場産業も発達している。そのあたりも流域委員会としてきちんと認識していく必要がある。場合によってはどなたかにお聞きするということも含めて考えていかなければならないと思う。
- 今後、どのようにNPOと連携していくかについては、庶務あるいは河川管理者の方から、いくつかのデータが出てきた段階で詰めていきたい。
- 一般の方からいくつかいただいている流域委員会に対するご意見には答えを求められているものもある。返答にあまり時間がかかると今後のレスポンスが期待できなくなってしまう。

最後に、次回以降の委員会における「揖保川と流域の現状認識」として、以下の情報を共有していくことが決まりました。

- NPO等との連携も含めて、地域づくり・まちづくりの活動に関する情報を共有する。
- 治水、利水及び水質・水量等の問題のこれまでの経緯について河川管理者に説明をお願いする。
- マップとしてまとめたものなど、植生、水生生物等の自然環境に関する情報を、上流域も含めて河川管理者に説明をお願いする。
- 地域の地場産業、特に水と関わりのある産業について情報を共有する。
- 委員会が得た情報をどのようにして流域の方々に伝えていくかについて、常に考えていく。場合によっては、アンケート等でより有効な方法をさがすということも考える。

3 傍聴者からの発言

3名の傍聴者からの発言がありました。

傍聴者の発言に対し、委員長からその場で回答できることならについてコメントがあり、さらに、これまでに書面等でいただいた意見に対してどのように考えていくかを次の議題にしながら、委員会を進めていく旨の発言がありました。

揖保川流域委員会とは

平成9年の河川法改正に伴い、これまでの「治水」「利水」に加えて「河川環境の整備と保全」が法の目的に追加されました(図-1参照)。

また、これまでの「工事実施基本計画」に代わって、長期的な河川整備の基本となるべき方針を示す「河川整備基本方針」と、今後20～30年間の具体的な河川整備の内容を示す「河川整備計画」が策定されることになり、後者については、学識経験者、地域住民等の意見を反映する手続きが導入されました(図-2参照)。

揖保川流域委員会は、「揖保川河川整備計画案(直轄管理区間)」の策定にあたり、

- 1 河川整備計画の原案について意見をいただく
 - 2 関係住民意見の反映のあり方について意見をいただく
- ことを目的に設置しているものです。

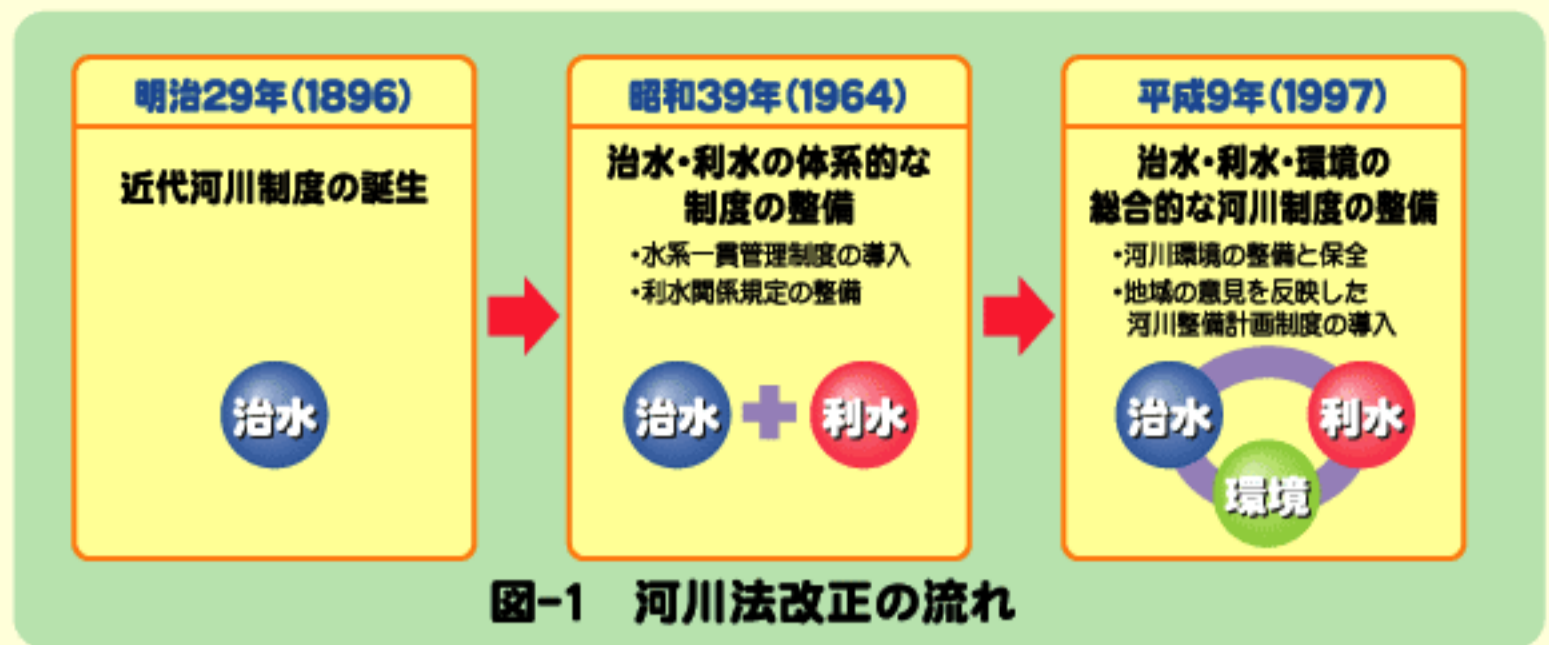


図-1 河川法改正の流れ

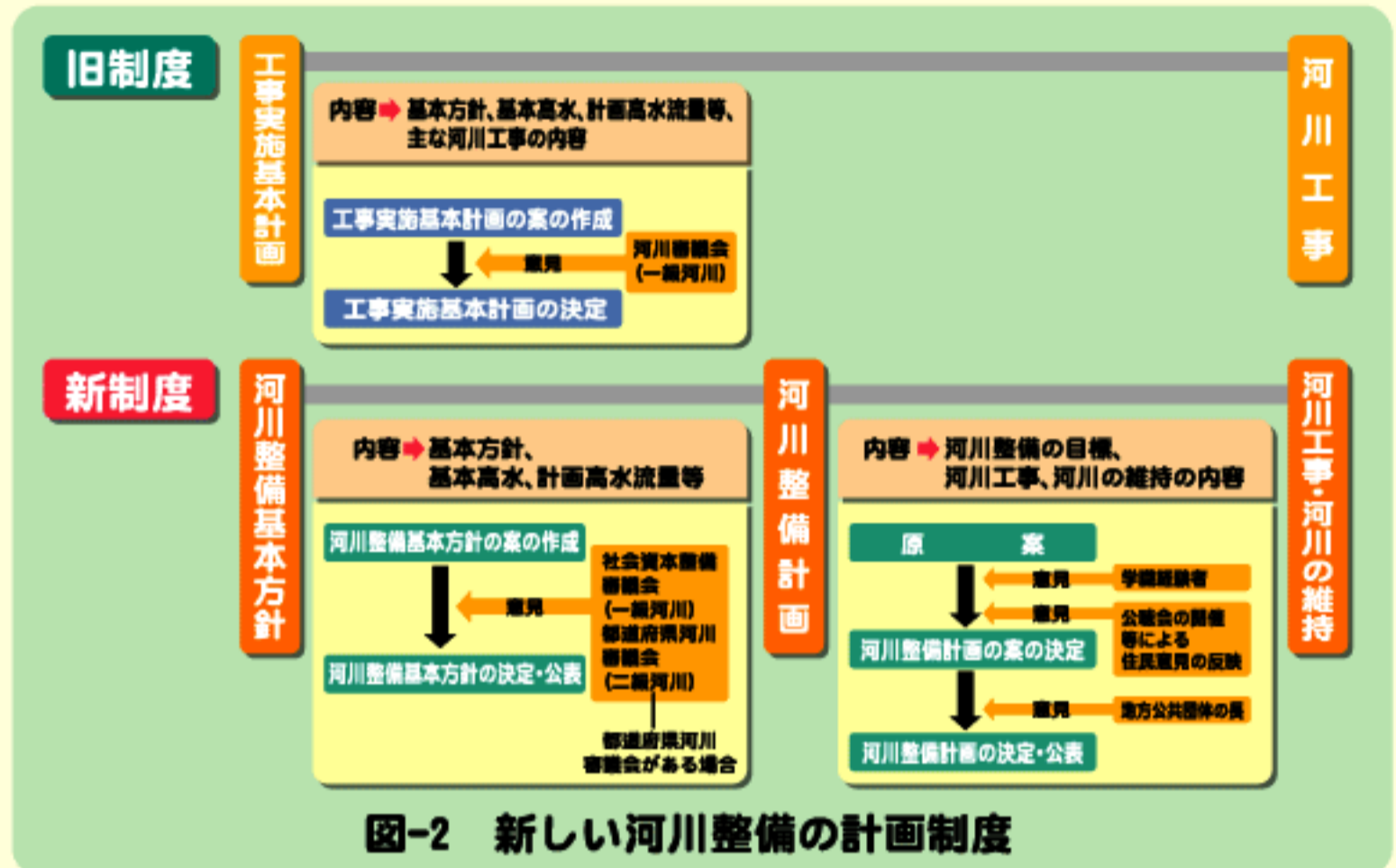


図-2 新しい河川整備の計画制度

揖保川流域委員会委員名簿

氏名	所属	分野
あさみ かよ 浅見 佳世	姫路工業大学客員助教授	植物生態
いENAが よしふみ 家永 善文	前姫路科学館館長	環境全般
いげた たける 井下田 猛	姫路獨協大学法学部教授	環境政策
くしだ たいぞう 柳田 泰三	揖保川漁業協同組合組合長	漁業
しょう かずゆき 庄 一幸	元中学校校長	上流域の地域特性
しんどう じゅんぞう 進藤 淳三	元社団法人龍野青年会議所理事長	グラウンドワーク 地域経済
たなかまる はるや 田中丸治哉	神戸大学大学院自然科学研究科助教授	農業水利
たはら なおき 田原 直樹	姫路工業大学教授	都市計画
とちもと たけよし 柄本 武良	姫路市立水族館館長兼 島根県立宍道湖自然館館長	水生動物 多自然型河川工事
なかのう かずや 中農 一也	学校法人誠和学院 姫路建設専門学校校長	都市環境デザイン まちづくり

氏名	所属	分野
なかもと たかみち 中元 孝迪	神戸新聞社常任監査役	マスコミ
はだ しげき 波田 重熙	神戸大学大学院教育研究センター教授	構造地質学
ふじた まさのり 藤田 正憲	大阪大学大学院工学研究科教授 大阪大学保全科学研究センター長	水質管理工学 環境生物工学
まさだ とみお 正田 富夫	うすくち龍野醤油資料館館長	地場産業
ますだ きよし 増田 喜義	網干史談会会長	歴史・文化財
まるやま のぶゆき 丸山 信行	元姫路市水道局浄水課長兼水質検査室長	上水道
みちおく こうじ 道奥 康治	神戸大学工学部教授	河川工学 環境水理学
もりもと いちじ 森本 一二	元中学校校長	歴史・文化財
よしだ ひさあ 吉田 久夫	播州皮革工業協同組合理事長	地場産業
わさき ひろし 和崎 宏	はりまインターネット研究会	地域情報化

これまでに開催された会議

● 揖保川流域委員会 設立準備会議

第1回設立準備会議	平成13年10月15日(月)
第2回設立準備会議	平成13年12月11日(火)

● 揖保川流域委員会

第1回委員会	平成14年3月4日(月)
第2回委員会	平成14年5月27日(月)

資料の入手方法

委員会資料の閲覧・郵送を希望される方は、電話・FAX・Eメールで庶務までご連絡下さい(庶務の連絡先は裏面をご参照下さい)。

※委員会資料は、ホームページからもダウンロードできます。

「表紙写真」の募集

揖保川流域委員会ニュースレターの表紙を飾る写真を、一般の方より募集します。
四季ありあけの揖保川の風景や行事など、揖保川流域内で撮影された写真を応募して下さい。
なお、ニュースレターは委員会の開催ごとに発行する予定で、表紙として採用させていただく
写真の選定は、委員会において行います。
また、応募いただいた写真の一部を揖保川流域委員会ホームページでも紹介させていただく
予定です。

【応募方法】

プリントした写真と、撮影場所・撮影時期等の説明文を同封し、住所・氏名・電話番号をご記入の上、
下記の庶務連絡先まで郵送で応募して下さい。応募写真は、未発表の作品に限らせていただきます。

※なお、使用させていただく写真の著作権、著作権は委員会に帰属するものとし、応募作品は返却しませんので、
あらかじめご了承ください。



揖保川流域委員会ニュースレター No. 2

【編集・発行】 揖保川流域委員会

【連絡先】 揖保川流域委員会 庶務

株式会社ニュージェック 担当：高橋、岡田

〒542-0082 大阪市中央区島之内1-20-19

TEL : 06-6245-9577

FAX : 06-6243-2776

E-mail : office@osakanewjec.co.jp

揖保川流域委員会 ホームページアドレス <http://www.iboriver.jp>